

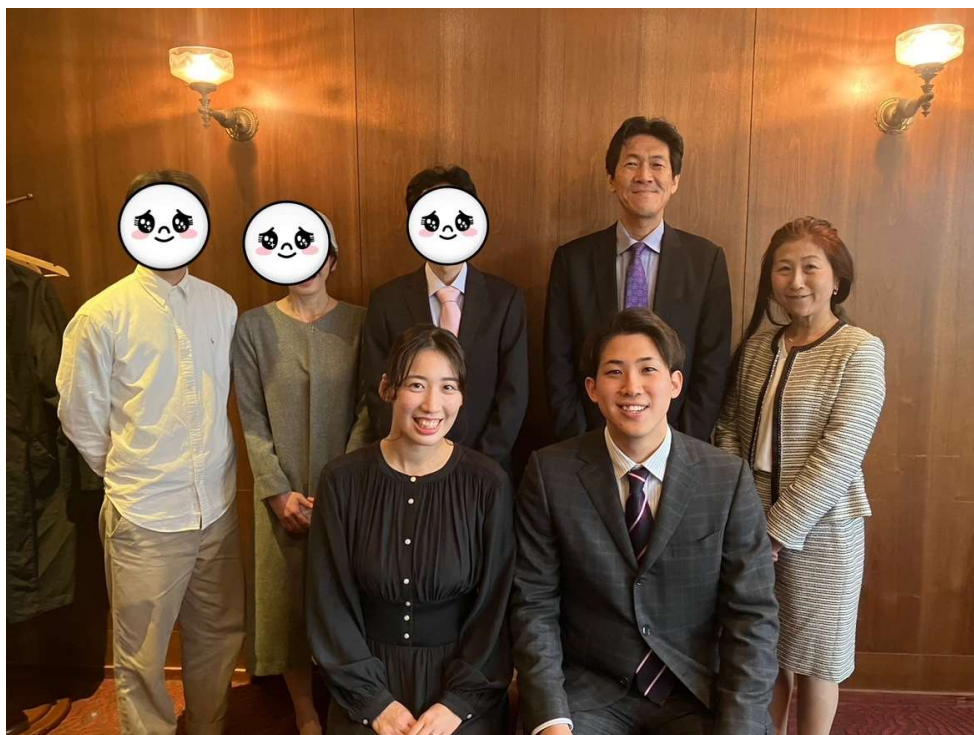
太田東西かわら版

おんころころ せんだりまとうぎ そわか

2023. 3

結婚とは

『生命の分化』



2月23日。両家顔合わせ会の後、二人は入籍を果たしました。

東京の病院に勤務していた次男が「太田東西薬局を受け継ぐ」と決意して長崎にUターンして2年半。

今からちょうど1年前に、運命の出会いがありました。

お相手は長崎市の保育士さん。詳細は若先生に訊いてください😊。

結婚にあたって、息子が嫁をもらう家族は「家族が増える」と言い、娘を嫁に出す家族は「家族が減る」という言い方をします。しかしよくよく考えると、とても違和感のある表現です。貯金みたいで。

26年間、たくさんのご家族に携わって来て思うことは

「人生は葛藤の連続」ということです。

子どもの結婚、進学、就職決定は、親として嬉しい。

しかし、嬉しい反面、どこか「寂しい」。

進学・就職が決まり、子どもが家を出ていく。

ちょうど3月のこの時期、その“葛藤”で涙する親御さんも多いですね。何を隠そう、長男が巣立って行った13年前の自分もそうだった・・(^_^;)。

大学受験や就職試験の合格に歓喜した一方で、いよいよ子どもが家を出ていくその日が近づくにつれ、切なく…悲しく…寂しく…なる。

ならば不合格・不採用で、ずっと子どもが家に居るほうがいいのか？ということそうではない。そうではないんだけど、スッキリしないものがある。

「スッキリしないもの」。その正体は何なのか？
引っ越しの片付けのように、「やっと終わったぞ！」という達成感・満足感が子育てで得られないのは、なぜなのか？

それは

子どもを「手放せない」から。子どもへの「執着」から。

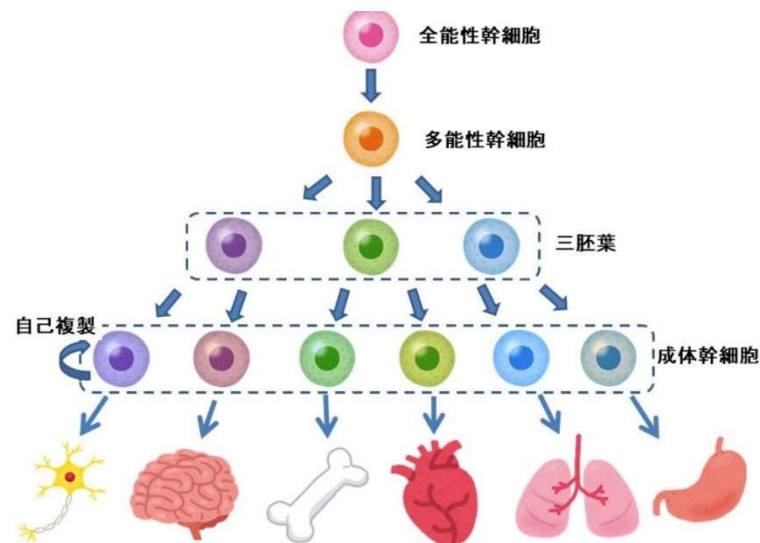
子どもとの生活が続く、続いてほしい。そんな思い込みと願望が親にはある。特に子育てにすべてを注いで来た親御さんほど、その思いは強い。

しかし現実、子どもは中学高校になるに従って、親から次第に離れていく。それが自然の成り行きで、それが「自立する」ことだと理解している。頭ではわかっているけれど、気持ちがついて行かない。人生の中でも一番の“葛藤”かもしれません。

「分化」 という医学用語があります。

分化(ぶんか、英: Differentiation)とは、本来は単一、あるいは同一であったものが、複雑化したり、異質化したりしていくさまを指す。生物学の範囲では、様々な階層において使われる。特に細胞の分化は発生学や遺伝学において重要な概念である。

例えば受精卵が卵割を重ねて多細胞系となり、さらに発生を続けて、個々の細胞が特殊化した細胞(筋細胞や神経細胞など)になることなどが分化の例である。



結婚して子どもを授かり、大切に育てる。すくすく成長していく子どもは親とは異なる存在に変わっていく。まさにそれは『分化』に似ています。

親がピンク色の頂上の細胞だとしたら、子どもは矢印下のオレンジ色の細胞。親の細胞から分化が起きて、親とは全く異なる様々な細胞に進化していく。

その分化が止まることは、発生・進化の終わりということであり、それは親の細胞(幹細胞)も含めたすべての細胞の「死」を意味します。子どもが分化ではなく、親の「コピー」となることも同様です。

子どもが親元を離れていく。親の寂しい気持ちはわかります。でも、快く手放せないならば、子どもの分化を無意識に妨げることになる。

結婚も子育ても、変化を前提とした「分化」の現象。子どもは親からどんどん分化して、素晴らしい人物に進化していく。『子孫繁栄』は分化の賜物です。

入籍を済ませた報告を息子から受けて、しみじみと妻と語り合いました。
「もうこれで、俺らの子どもではなくなったね。独立した一人の成人男性だ。
良い嫁さんをもたらって、家族が増えておめでとう！バンザイ！とかじゃなく。
4人家族の終焉。正直、ちょっとだけ寂しいね・・・」



「偉そうなこと記しながら、太田先生も寂しがっているじゃないですかっ！」
読者のお客様たちから叱られそうです・・・(苦笑)。

でも、誓って引きずっていませんよ。結婚は家族が“増えた・減った”という
出来事ではなく、それは「生命の分化」だと考えているから。

『結婚とは生命の分化』。太田先生、かっこいい～～！😊

人は一般に「変化のない安定」を求めます。変化＝ストレス＝恐怖ですから。
慣れ親しんだ場所や人を選び、それを維持していきたいと願う。
でも、他人と関わって生きていく以上、変化は避けられません。

家族は不変ではない。家族を構成する人間だけではなく、家族の関係性も
どんどん移り変わっていくもの。結婚当初、確かに愛していたはずの夫。
それが今では鬱陶（うっとう）しくてたまらなくい妻は多い(笑)。

では、
子育てを終え、子どもが結婚・独立した後の親は、どうしたらいいのか？

「分化」、継続して生きていくことです！

子どもを最優先にして生きて来た自分。母親としての自分から「自分自身を
分化させていく」のです。子どもから、今度は「自分に目を向ける」のです。
自分のやりたいことを見出して、自分中心の人生を生きるのです。

子育てが終わった後は、「自分育て」。自分育てが「自分の分化」です。
自分の分化には、寂しさも悲しみもありません。喜びだけが待っています。